
タイトル	中世西大寺流関係文献目録稿：補遺及び続編
著者	追塩，千尋
引用	北海学園大学人文論集，34：173-201
発行日	2006-07-31

中世西大寺流関係文献目録稿（補遺及び続編）

追 塩 千 尋

はじめに

本目録は前稿「中世西大寺流関係文献目録稿」（『人文論集』20，2001年11月）の補遺及び続編をなすものである。前稿の収録範囲は2000年末までとし、2001年も9月までは目に触れたものは極力採録した。前稿が年度途中で途切れた形になったため、本稿は改めて2001年から採録することとし、2005年までを範囲とした。ただ、情報は出来るだけ早目に提供しておいた方が良く、という配慮から今回も年度途中ではあるが、2006年5月頃までは目に触れたものは採録した。また、2000年以前で前稿以後気のついたものや、ご教示があったものを補遺として加えた。特に考古学や美術関係は、それぞれ山川均・内田啓一両氏より賜わった文献などを通じてご教示を得たことを感謝申し上げたい。その補遺部分が一定の量になってきたので、補遺も含めてここに続編を掲載する次第である。

国会図書館の雑誌記事索引を始めとして、各種の文献検索機能が近年充実化している。それらを適宜組み合わせれば、一定の限界はあるにしてもこうした類の目録を作成することはさほど困難ではない時代になってきている。本目録が幾分かでも取り得があるならもうしばらく継続したいと思っているが、作成意義は思っていた以上の早さで希薄になってきていると感じている。

今回の収録範囲は研究動向を記すほどの期間ではないし、ここはそうした場でもない。ただ、2001年からの5年間に限っても、今回の目録では関係文献は150点余りに上った。西大寺流研究が活況を呈し始めた1970年代から前稿が範囲とした2000年までは、今回の補遺を加えると関係文献数は

450点余りであった。前稿・本稿ともまだ遺漏があるだろうから軽々に断言できないが、2000年代に入り、年単位ではそれ以前よりも平均倍近い数の関係文献が出されていることになる。文献の数だけで判断するのは問題があるだろうが、西大寺流研究はますます活況を呈している、とあってよいであろう。途中までではあるが、2006年の出足を見てもその傾向が継続されていることがうかがえよう。

活況を呈している理由として、西大寺流がその広がりから、単に仏教史だけではなく社会経済史や歴史考古学・美術史、さらには国文学・社会福祉・医学史など多分野からの研究が行われていることが考えられる。そこで、この5年間において、いくつか気のついた特徴的な点を取りあえずは以下メモ風に記しておきたい。

第1は、2001年4月の戒律文化研究会の発足である。仏教戒律を中心とする学術的研究の昂揚と、現代における実践活動への見通しも目指した研究会である。研究対象は文字通り戒律に関わる文化事象全般であるから、西大寺流に対象・課題が限定された会ではない。しかし、事務局が西大寺に置かれたことや西大寺流に関わる研究者が幅広く参加していることなどから、西大寺流研究の推進が期待されるところであり、会誌『戒律文化』にその成果が反映されつつある。

第2に、単行本関係では、これまでの西大寺流研究の成果をまとめる営みがいくつかなされたことである。寺院史研究の視点からの大石雅章(2004年)、また、稲城信子(2005年)、上田さち子(2005年)、佐藤信(2005年)らの編書は、中世西大寺が置かれていた宗教・社会環境を考える上で重要と思われる。堀池春峰(2004年)の著書もそうした流れでとらえられよう。

中でも佐藤の編書は、西大寺流が展開した場の特質を社会経済史的視点から捉えようとしたもので、宗教史の立場からその成果をどう取り入れるのかが改めて一つの課題となったといえよう。加えて近年西大寺流関係遺跡の発掘や、西大寺流との関係が看取される五輪塔を中心とした各地の石塔類の調査が急速に進み、石工などの系譜・存在形態が明らかにされつつある。そうした歴史考古学の成果の吸収も重要課題である。重源が組織し

た技術者集団を叡尊が再組織した、という見通しは以前から指摘されており、今日重源を論ずる際には避けては通れない課題になっている（奈良国立博物館編・発行『大勸進重源（御遠忌 800 年記念特別展図録）』2006 年、など）。重源から叡尊への連続性を証明する鍵は、文献よりも歴史考古学と美術史が握っていると思われるので、今後の成果に期待される。

また、2006 年のものではあるが、内田啓一、追塩の書は西大寺流の展開・広がりに関わるものである。上田には叡尊・忍性研究にひとつの画期を築いた専論があるので、それらが論文集の形でまとめられることが後学のためにも望まれるところである。

第 3 に、新しい叡尊・忍性伝が松尾剛次を中心に進められたことである（松尾及び同編著 2004 年）。松尾編著の『叡尊・忍性』は両僧研究の現段階がわかりやすく示されている。松尾の『忍性』（2004 年）は、叡尊・忍性伝の基本とされる和島芳男『叡尊・忍性』（1959 年）以来、およそ半世紀振りの本格的忍性伝である。忍性自身を語る史料は意外と少ないだけに、伝記的叙述は叡尊よりも困難であるが、松尾は忍性が身を置いた場（常陸三村寺、都市鎌倉、極楽寺など）に関する近年の考古学や美術史学を含めた成果を取り入れることにより、新味を出している。和島は叡尊と抱き合わせで漸く一書の体裁をとっていたが、松尾のそれは忍性だけで和島の 3 倍の頁数を持つ書になっているところに、隔世の感を抱く。同じシリーズであるミネルヴァ日本評伝選では細川涼一による叡尊伝も予定されているが、期待したいところである。

第 4 に、史料関係では、極楽寺に関する資料（文献・遺品類）がまとめられたことである（2003 年）。関東の西大寺流の拠点寺院であった極楽寺関係の文書類は、これまでも『金沢文庫古文書』・『鎌倉市史』史料編・『神奈川県史』資料編（古代・中世）などにも収められていた。それが今回美術的遺品類とともに一書に集約されたことは喜ばしい限りである。忍性の十種大願が収められていないなど惜しまれる点もあるが、忍性及び極楽寺の基本資料集として今後大いに活用されることが望まれる。ただ、出版ルートに乗っていない書物のため、多くの人の目に触れにくいことが危惧され

る。今回の続編の範囲の書ではないが、『中世民衆寺院の研究調査報告書』I II III (1990～92年, 元興寺文化財研究所)は西大寺末寺研究には欠かせない有益な資料集である。しかし、それほど活用されている形跡が伺えないのは、末寺研究がさほど活発ではないという理由だけではなく、何よりも本書(特にIII)が流布していないことによるものと思われる。書物の流布が研究の動向を左右することもあるので、『極楽律寺史』が埋もれることなく活用されることを願いたい。

今回の凡例も前回と同様であるので繰り返さないが、考古学・美術分野を中心に多々遺漏があると思われる。特に叙述内容が西大寺流に深く関わっていても、タイトルにそのことが現れていない文献は見逃されがちになるので、ご教示いただければ幸いである。

なお、2001年までに關しては、佐伯俊源「南都西大寺史関係文献目録稿」(『戒律文化』創刊号, 2002年)も参照し補っていただきたい。当目録は題目にある通り中世西大寺流に限定されたものではないが、西大寺史に關わる文献を広範囲に収集し、分類も工夫されていて有益である。

I 補遺編

1, 単行本・雑誌特集

- | | | |
|--|------------|------|
| 『仏教芸術』62号「特集西大寺の美術」 | 毎日新聞社 | 1966 |
| 「西大寺の創建」(福山敏男) | | |
| 同氏著『日本建築史研究』続編 所収(墨水書房, 1971) | | |
| 吉村良司『鎌倉忍性塔由来』 | 北羊社 | 1972 |
| 山口晃一『日蓮聖人と両火房』第1巻 | 法華ジャーナル | 1980 |
| 生駒市郷土資料館編『忍性展——大和竹林寺の忍性墓出土遺物——』 | | 1987 |
| 加古里子・緒方英樹『人をたすけ国をつくったお坊さんたちく土木の絵本
4>:日本の土木工事をひらいた人びと/道登・道昭・行基・良弁・重源・
空海・空也・一遍・忍性・叡尊・禅海・鞭牛』 | 全国建設研修センター | |

- 1997
- 堺市博物館編 『没 1250 年記念特別展 行基——生涯・事跡と菩薩信仰——』 堺市博物館 1998
- 昭和女子大学唐招提寺展小委員会編 『律苑僧宝小誌』（昭和女子大学創立八十周年記念「唐招提寺展」開催記念） 2000

2. 論文（上記単著収録論文は原則除く）

- 上村観光 「関東往還記〔叡尊著〕を読む」『禅宗』202 1912
- 同氏著 『禅林文藝史譚』所収（大鏡閣，1919，同書は『五山文学全集』別巻にも収録，思文閣出版，1973）
- 藤懸静也 「文観僧正と八字文殊師利菩薩図」『国華』352 1919
- 藤懸静也 「建武の手記ある五髻文殊図」『国華』535 1935
- 川瀬一馬 「興正菩薩が伏敵祈願の護国經典開版に就いて」『大和志』9-3 1942
- 同氏著 『日本書誌学之研究』所収（講談社，1971）
- 小林 剛 「西大寺文殊菩薩像納入物」『大和文化研究』2-2 1954
- 蔵田 蔵 「金銅能作生塔（奈良県長福寺蔵）」『ミュージアム』47 1955
- 守田公夫 「西大寺の舍利塔」『大和文華』20 1955
- 蔵田 蔵 「舍利信仰と舍利容器」『ミュージアム』58 1956
- 三山 進 「称名寺の興正・忍性両菩薩像について」『ミュージアム』92 1958
- 毛利 久 「清凉寺釈迦像変遷考」『仏教芸術』35 1958
- 貫 達人 「鎌倉の大石塔」『人物叢書』付録第30号（吉川弘文館） 1959
- 柴田 実 「中世の自叙伝——「感身学正記」のこと——」『人物叢書』付録第30号（吉川弘文館） 1959
- 渋谷二郎 「箱根精進池畔の石仏群」『金沢文庫研究』44 1959
- 松村政雄 「吉野曼荼羅図」『国華』824 1960
- 三山 進 「極楽寺の肖像彫刻——西大寺肖像彫刻の系譜——」『ミュージアム』115 1960

- 清野智海 「西大寺蔵寺伝『仁王会本尊図』、『大和文化研究』6-12 1961
- 久保田収 「大神神社における神仏関係」、『神道史研究』9-6 1961
- 同氏著 『神道史の研究』所収(皇学館大学出版部, 1973)
- 西田長男 「三輪神道成立の一齣」、『神道史研究』9-6 1961
- 大神神社史料編集委員会『大神神社史料』第3巻 研究論説編 所収(吉川弘文館, 1971)
- 兜木正亨 「鎌倉時代に開版された『九重守』の遺例」、『金沢文庫研究』84 1962
- 杉山二郎 「尾道浄土寺とその聖徳太子像——聖徳太子像研究のうち(5)——」、『大和文化研究』7-2 1962
- 同氏著 『日本彫刻史研究法』に収録(東京美術, 1991)
- 永井義憲 「聖徳太子に帰依した信如尼とその周辺——天寿国繡帳発見者のこと——」、『四天王寺』260・261 1962
- 同氏著『日本仏教文学研究』第2集に「信如尼とその周辺」と改題し収録(豊島書房, 1967)
- 浜田 隆 「新出の『仏菩薩羅漢像』について」、『日本歴史』163 1962
- 光森正士 「西大寺釈迦像の造像と安置について」、『印度学仏教学研究』12-2 1962
- 三山 進 「極楽寺(鎌倉)の文殊菩薩像について」、『ミュージアム』143 1963
- 同氏著 『鎌倉彫刻史論考』所収(有隣堂, 1981)
- 猪川和子 「関東の清涼寺式釈迦像」、『美術研究』237 1965
- 長谷川誠 「西大寺愛染明王像とその前後」、『仏教芸術』63 1965
- 久野 健 「大仏師善円とその作品」、『美術研究』20 1965
- 三山 進 「福島県長福寺縁起と興正菩薩像」、『金沢文庫研究』11-3 1965
- 同氏著 『鎌倉彫刻史論考』所収(有隣堂, 1981)
- 田村隆照 「文観房弘真と文殊信仰」、『密教文化』76 1966
- たなかしげひさ 「古市西琳寺の興亡と変貌」、『古代学』54 1967
- 同氏著 『奈良朝以前寺院址の研究』所収(白川書院, 1978)

- 平田 寛 「南都の大智律師画像」『ミュージアム』205 1968
- 角川源義 「妙本寺本曾我物語攷」同氏編『妙本寺本曾我物語（貴重古典籍叢刊3）』所収，角川書店 1969
- 同氏 『角川源義全集』第2巻「古典研究II」収録（角川書店，1987）
- 藤沢一夫 「河内廃円通院旧在石塔石仏の逸銘——大巧井氏末吉の作銘など——」『史迹と美術』394 1969
- 田中久夫 「葉黄記に見える葉室定嗣の信仰の一側面」高橋隆三先生喜寿記念論集刊行会編『古記録の研究』所収，続群書類従完成会 1970
- 同氏著 『鎌倉仏教雑考』所収（思文閣出版，1982）
- 藤原正義 「律（金沢称名寺）と兼好」『金沢文庫研究』16-10 1970
- 同氏著 『中世作家の思想と方法』所収（風間書房，1981）
- 藤井 学 「叡尊・忍性と茶」『茶道雑誌』35-2 1971
- 同氏著 『法華衆と町衆』所収（法蔵館，2003）
- 藤井 学 「宇治の叡尊十三重石塔再建と茶師供養——福田海を中心に——」『茶道雑誌』35-3 1971
- 同氏著 『法華衆と町衆』所収（法蔵館，2003）
- 猪川和子 「名匠善円と後継者たち（日本の巨匠—5—）」『日本美術工芸』406 1972
- 田中久夫 「仏教者としての叡尊」『奈良六大寺大観』付録14 1973
- 同氏著 『鎌倉仏教雑考』所収（思文閣出版，1982）
- 中井真孝 「道明寺記について」佛教大学文学部学会『人文学論集』7 1973
- 藤原正義 「律と兼好」『金沢文庫研究』19-7 1973
- 同氏著 『中世作家の思想と方法』所収（風間書房，1981）
- 荻野三七彦 「中宮寺三重塔と尼信如（研究余録）」『日本歴史』326 1975
- 川添昭二 「鎌倉時代の対外関係と文物の移入」岩波講座『日本歴史』6 1975
- 同氏著 『日蓮とその時代』所収（山喜房仏書林，1999）
- 広瀬智一 「鎌倉時代における南都仏教の社会救済事業序説——叡尊及び

- 忍性の場合——『東北福祉大学仏教社会福祉研究所紀要』 1 1975
- 是光吉基 「芸備地方における中世石造物の研究」河合正治編『瀬戸内海地域の宗教と文化』所収, 雄山閣出版 1976
- 中島亮一 「摂津・多田院をめぐる二・三の問題」『印度学仏教学研究』24-2 1976
- 中村 浩 「西琳寺宝生院跡出土骨蔵器について」『古代研究』(元興寺仏教民俗資料研究所考古学研究所) 10 1977
- 田村寛康 「興正菩薩叡尊像——福智院の叡尊像を中心として——」『日本美術工芸』471 1977
- 西崎 亨 「西大寺蔵興正菩薩御教誠聴聞集」について——近代語的事象についての二, 三の覚え書き——『解釈』23-8 1977
- 納富常天 「南都仏教における女人往生思想」『印度学仏教学研究』25-2 1977
- 毛利 久 「兵庫県における奈良仏師の作品」『南都仏教』39 1977
- 長谷川誠 「常陸般若寺の鐘銘にみる僧源海：西大寺叡尊研究拾遺常陸(1)」『筑波大学芸術年報』 1982
- 中尾良信 「鎌倉初期の禅宗と律宗」『印度学仏教学研究』31-1 1982
- 猪川和子 「西国の清凉寺式釈迦如来像」上『美術研究』324 1983
- 峰岸純夫 「鎌倉極楽寺と忍性の非人救済事業——部落の生活史10——」『部落』35-1 1983
- 猪川和子 「西国の清凉寺式釈迦如来像」下『美術研究』327 1984
- 猪川和子 「愛媛の清凉寺式釈迦如来像」『美術研究』330 1984
- 千々和到 「起請文研究ノート(1)——誓約の作法——」『人民の歴史学』78 1984
- 朝井衿善 「浄土寺五輪塔(累代先住墓)について」『尾道市文化財春秋』20 1985
- 竹内理三 「大和西大寺蔵騎獅子文殊菩薩像胎内経及び胎内文書」『鎌倉遺文月報』28 1985
- 武笠 朗 「西大寺四王堂十一面観音像について」『美術史』35-2 1986

- 奈良弘元 「わが国における菩薩号の下賜について——行基・叡尊を中心として——」『日本仏教学会年報』51 1986
- 奈良弘元 「叡尊・忍性にみられる慈悲行の実践」『精神科学』25 1986
- 真喜志瑤子 「琉球極楽寺と円覚寺の建立について(1)」『南島史学』27 1986
- 阿部泰郎 「湯屋の皇后」『文学』54-11, 55-1 1986・1987
同氏著 『湯屋の皇后』所収（名古屋大学出版会，1998）
- 阿部泰郎 「中世南都の宗教と芸能——信如尼と若宮拝殿巫女をめぐる——」『国語と国文学』64-5 1987
同氏著 『聖者の推参』所収（名古屋大学出版会，2001）
- 猪川和子 「清凉寺釈迦如来像と模刻像」田村圓澄先生古稀記念会編『東アジアと日本』考古・美術編所収，吉川弘文館 1987
- 井原今朝男 「中世東国における非人と民間儀礼」『部落問題研究』92 1987
同氏著『中世のいくさ・祭り・外国との交わり——農村生活史の断面——』所収（校倉書房，1999）
- 小山正文 「文永元年の金峰山蔵王堂鐘」『史迹と美術』57-8 1987
- 笠井正弘 「蒙古襲来期における仏教系新宗教運動とその教祖たち——叡尊・忍性・日蓮・一遍——」宗教社会学研究会編集委員会編『教祖とその周辺』所収，雄山閣出版 1987
- 砂川 博 「「太平記」と中世律僧」『日本文学』36-12 1987
同氏著 『軍記物語の研究』所収（桜楓社，1990）
- 田村晃祐 「律宗の菩薩」金岡秀友編『大乘菩薩の世界』所収，佼成出版社 1987
- 砂川博 「続・「太平記」と中世律僧」『日本文学』37-10 1988
同氏著 『軍記物語の研究』所収（桜楓社，1990）
- 砂川 博 「楠正成譚と中世律僧」北九州大学『文学部紀要』39 1988
同氏著 『軍記物語の研究』所収（桜楓社，1990）
- 中井真孝 「菩薩行と社会事業」村上重良編『民衆と社会く大系仏教と日本

- 人10』所収, 春秋社 1988
- 中村普也 「日蓮聖人の忍性批判について」『日蓮教学研究所紀要』15
1988
- 野村 隆 「伊派遺品の傾向と大蔵派宝篋印塔」『史迹と美術』519 1988
- 阿部泰郎 「宝珠と王権——中世王権と密教儀礼——」 岩波講座東洋思想
第16『日本思想』II所収, 岩波書店 1989
- 中村晋也 「日蓮聖人の律宗批判について」『日蓮教学研究所紀要』16
1989
- 松井輝昭 「尾道浄土寺の寺院組織——鎌倉末・南北朝期を中心に——」『瀬
戸内海地域史研究』2 1989
- 大石雅章 「西大寺と叡尊」『元興寺文化財研究』36 1990
- 前園実知雄 「墓所からみた律宗の祖師信仰」『元興寺文化財研究』36
1990
- 嵯峨井建 「『津守氏古系図』の研究——生きた神仏習合史——」『国学院雑
誌』92-5 1991
- 西崎 亨 「大和で見た『金剛峯楼閣一切瑜伽瑜祇経』古点二種——」『南都
仏教』65 1991
- 根立研介 「金峰山寺木造聖徳太子立像について」『仏教芸術』197 1991
- 関根俊一 「南都における中世舍利荘嚴具の展開(二)」『仏教芸術』204
1992
- 田中正人 「建武三年正月の文観——『太平記』での人物形象——」『同志社
国文学』36 1992
- 八田達夫 「架橋と造仏——主に泉橋をめぐる事項について——」『国史学
研究』18 1992
- 同氏著 『靈驗寺院と神仏習合』所収(岩田書院, 2003)
- 安田次郎 「にぎわう都市寺院——奈良の新浄土寺——」五味文彦編『都市
の中世』所収, 吉川弘文館 1992
- 箱根町教育委員会 「元箱根石仏・石塔群の調査」『箱根町文化財研究紀要』
25 1993

- 苅米一志 「西大寺叡尊の殺生禁断活動について」『史潮』新 35 1994
 同氏著 『荘園社会における宗教構造』所収（校倉書房，2004）
- 杉山二郎 「鎌倉新仏教と密教——重源から叡尊へ——」『密教学研究』26
 1994
- 鈴木元造 「[復刻] 奈良，北山十八間戸，創立に関しての一考察——付，
 一遍上人の癩救济事蹟——」『医譚』67 1994
- 丹生谷哲一 「非人・河原者・散所」岩波講座『日本通史』中世2所収，岩
 波書店 1994
 同氏著 『身分・差別と中世社会』所収（塙書房，2005）
- 伊藤唯真 「阿弥陀仏号所有者の析出」同氏著『聖仏教史の研究』下 所収，
 法蔵館 1995
- 末木文美士・蓑輪顕量 「中世南都系仏教の実践思想——明恵と叡尊——」
 高崎直道・木村清孝編『シリーズ・東アジア仏教』4所収（明恵は末木，
 叡尊は蓑輪執筆），春秋社 1995
- 菅原信海 「三輪流神道における二大系譜」『早稲田大学大学院文学研究科
 紀要』哲学・史学編 40 1995
 同氏著 『日本思想と神仏習合』所収（春秋社，1996）
- 細川涼一 「筑波山麓の石造美術と中世律宗」所理喜夫他編『図説茨城県の
 歴史〈図説日本の歴史8〉』所収，河出書房新社 1995
- 追塩千尋 「創建後の国分寺の動向」角田文衛編『新修国分寺の研究』第6
 巻所収，吉川弘文館 1996
- 藤沢典彦 「大田庄の石造遺品とその背景」吉井敏幸編『中世荘園における
 寺社の研究調査報告書』所収，元興寺文化財研究所 1996
- 桃崎祐輔 「鎌倉時代蓮華唐草文軒平瓦の系譜と年代」西野元先生退官記念
 会編『考古学雑渉』所収，西野元先生退官記念会 1996
- 鈴木喜博 「旧大御輪寺本堂と安置仏像の変遷考」『仏教芸術』232 1997
- 水野正好 「古代エッセー（十）山陵の丘から——叡尊と西大寺奥院骨堂と
 ——」『月刊奈良』351 1997
- 関根 透・北村中也 「鎌倉時代における僧医の倫理観——叡尊と忍性

- 」『日本歯科医療管理学会雑誌』33-2 1998
- 高橋秀栄 「金沢北条氏と唐物——宋版一切経を中心に——」金沢文庫編
『唐物と宋版一切経』所収, 金沢文庫 1998
- 沈 仁慈 「鎌倉時代における戒律復興運動の二形態——戒律制度を中心
として——」『韓国仏教学 SEMINAR』7 1998
- 中原祥徳 「伊勢神宮御正体厨子——仏眼と愛染の配当形態について——」
『印度学仏教学研究』46-2 1998
- 藤田明良 「鎌倉後期の大阪湾岸——治天の君と関所——」『ヒストリア』
162 1998
- 細川涼一 「中世律僧と太平記——文観・智篋・慶円——」軍記物語研究叢
書『太平記の成立』所収, 汲古書院 1998
- 渡邊昭五 「太平記語り手としての禅律僧」『国学院雑誌』99-8 1998
- 釈舎幸紀 「叡尊と忍性の社会事業——戒律から見た共生の思想——」『日
本仏教学会年報』64 1999
- 辻村泰善 「『瑜伽伝燈鈔』にみる文観伝」『元興寺文化財研究』69 1999
- 内藤 榮 「密観宝珠舍利容器について」『鹿園雑集』1 1999
- 箱崎和久 「鎌倉時代後期の戒律復興期における一様相」関口欣也先生退官
記念論文集刊行会編『建築史の空間：関口欣也先生退官記念論文集』所
収, 中央公論美術出版 1999
- 藤井直正 「河内教興寺と浄厳和尚」『大手前女子大学論集』32 1999
- 藤沢典彦 「石造物調査 茨木市佐保周辺地区の石造物調査」大阪府文化財
調査研究センター編『彩都（国際文化公園都市）周辺地域の歴史・文化
総合調査報告書』所収 1999
- 藤田明良 「清盛塚石塔と鎌倉時代の兵庫津」歴史資料ネットワーク編『歴
史の中の神戸と平家』所収, 神戸新聞総合出版センター 1999
- 丸林敏彦 「極楽寺忍性の現代性」『東方』15 1999
- 井野上真弓 「中世王権と立川流——文観の名称をめぐって——」『文明研
究』18 2000
- 岩崎しのぶ 「西大寺荘園絵図群と相論——文脈論的アプローチを用いて

- 」『人文地理』52-1 2000
- 河田 貞 「瑞巖寺蔵水晶六角五輪塔仏舎利容器について」『東北歴史博物館研究紀要』2 2000
- 久保田淳 「西大寺の静然上人〈徒然草評釈251〉」『国文学 解釈と教材の研究』45-10 2000
- 小谷利明 「中世八尾における律衆の広がり」『八尾市立歴史民俗資料館研究紀要』11 2000
- 山縣然太郎 「鎌倉時代における叡尊・忍性の救癩事業——イギリス中世の状況と対比して——」『日本ハンセン病学会雑誌』69-1 2000
- 3, 西大寺関係史料（含資料紹介・解説, 報告書, 図録, レジメ集類）**
- 大阪府教育委員会 『河内西琳寺の研究』〈大阪府文化財調査報告第3集〉 1955
- 大神神社史料編集委員会 『大神神社史料』第2巻 史料編続 吉川弘文館 1978
- 長谷川誠 「〈金剛仏子叡尊感身学正記〉の補訂：西大寺叡尊研究拾遺(2)」『筑波大学芸術年報』 1982
- 加地宏江 「〈資料紹介〉津守氏古系図について」関西学院大学人文学会『人文論究』37-1 1987
- 和田大円他 『東密諸法流印信類聚』（『野沢諸法流印信類聚』〈1936年刊〉の改題複製）第5巻 東方出版 1988
- 同上第10巻（1989年），第16巻（1990年）
- 山武考古学研究所編 『三村山極楽寺跡遺跡群：確認調査報告書』つくば市教育委員会 1993
- テーマ展図録 『称名寺の新発見資料』 金沢文庫 1994
- 藤森賢一・米山孝子 「高野山正智院蔵『行基菩薩縁起図絵詞』解説と翻刻」『高野山大学論叢』29 1994
- 大石雅章 『日本中世後期における寺社勢力と在地社会』（科学研究費成果報告書） 1996

- 宮津市史編さん委員会編 『宮津市史』史料編第1巻所収「西大寺文書」(部分) 宮津市役所 1996
- 吉積久年 「周防国分寺文書」角田文衛編『新修国分寺の研究』第6巻所収, 吉川弘文館 1996
- 極楽寺中心伽藍跡群発掘調査団 『極楽寺旧境内遺跡：神奈川県・鎌倉市』 1998
- 积舎幸紀 「叡尊と忍性の足跡①」『高田短期大学紀要』16 1998
- 积舎幸紀 「叡尊と忍性の足跡②」『高田短期大学紀要』17 1999
- 遠藤基郎 〈史料紹介〉「筒井寛秀氏所蔵文書」所収の弘安徳政関連文書『南都仏教』76 1999
- 大和郡山市教育委員会 第五回こおりやま歴史フォーラム資料『ふるさと郡山が生んだ傑僧 叡尊』 1999
- 和歌山県橋本市・和歌山県教育庁文化財課紀の川流域荘園詳細分布調査委員会編 『紀伊国隅田荘現況調査<紀の川流域荘園詳細分布調査概要報告書I>』 和歌山県教育委員会 2000

II 続編

1, 単行本・雑誌特集

- 『週刊古寺をゆく』31「西大寺・秋篠寺」 小学館 2001
- 田辺三郎助 『田辺三郎助彫刻史論集』 中央公論美術出版 2001
- 「鎌倉中期の奈良仏師——いわゆる善派を中心に——」(1983)
- 「ある仏師の年齢」(1983)
- 「大仏師康俊・康成について」(1997)
- 奈良国立博物館編 『興正菩薩叡尊』 奈良国立博物館 2001
- 奈良六大寺大観第14巻 『西大寺』補訂版 岩波書店 2001
- 松尾剛次 『太平記』 中央公論新社 2001
- 石井 進 『中世のかたち<日本の中世1>』 中央公論新社 2002
- 『戒律文化』 創刊号 2002

- 菟輪顕量 「仏教学から見た中世律宗の革新性——授戒儀の変遷を中心に——」
- 稲城信子 「中世律宗における聖教の伝授——西大寺所蔵聖教類の奥書から——」
- 同氏著『日本中世の経典と勸進』所収 塙書房 2005年
- 宮城洋一郎 「叡尊の救済事業と現代化の課題」
- 追塩千尋 「中世西大寺流研究の回顧と課題」
- 佐伯快勝 「「戒律」以前の戒律——宗祖叡尊上人在世の頃と現代の世と——」
- 東 隆眞 「叡尊上人と道元禅師」
- 佐伯俊源 「南都西大寺史関係文献目録稿」
- 神奈川県立金沢文庫編 『称名寺の石塔：中世律宗と石塔』 金沢文庫 2002
- 鎌倉国宝館編 『極楽寺忍性ゆかりの遺宝：奈良から鎌倉への軌跡』（展示図録） 鎌倉国宝館 2002
- 国立歴史民俗博物館編 『中世寺院の姿とくらし——密教・禅僧・湯屋——』（展示資料図録） 国立歴史博物館 2002
- 東京大学文学部・奈良国立博物館編 『西大寺絵図は語る』 奈良国立博物館 2002
- 『戒律文化』 2 2003
- 大石雅章 「中世顕密寺社と律衆」
- 吉井敏幸 「叡尊と八幡大乘院」
- 附・翻刻 『八幡大乘院旧記』（西大寺蔵）
- 井野上真弓 「文観房殊音と河内国」
- 桃崎祐輔 「律宗系文物からみた東国の律宗弘布の痕跡」
- 岡本智子 「大蔵派宝篋印塔の研究」
- 西山明彦 「覚盛和尚の苦悩」
- 田中密敬 「忍性菩薩七百年御遠忌を迎えて」
- 加賀元子 『中世寺院における文芸生成の研究』 汲古書院 2003

- 「無住と法隆寺僧恵巖」(2000)
- 「『法隆寺縁起白拍子』の周辺」(1997)
- 「鴨長明仮託書享受の一樣相」(1997)
- 「西大寺蔵写本『妻鏡』をめぐる」(1999)
- 翻刻「西大寺蔵写本『妻鏡』」(2000)
- 佐藤信代表 『古代荘園絵図群による歴史景観の復元的研究〈平成11年～14年度科研費研究成果報告書〉』 2003
- 瀬崎浩孝編 『下兵庫村と大寺(利生護国寺)』 2003
- 『仏教を歩く』11「明恵・叡尊・忍性」 朝日新聞社 2003
- 松尾剛次 「十万人を率いた戒律復興の師弟」
- 松尾剛次 「叡尊のことば——心が貧しかったら、何の意味もない」
- 桑原英文 「巨大茶碗でいただく叡尊“元祖”の大茶盛式」
- 編集部 「西大寺——高潔の名僧が復興した市中の根本道場」
- 松尾剛次 『日本中世の禅と律』 吉川弘文館 2003
- 「中世律僧とは何か」(2002)
- 「叡尊の思想——釈迦信仰と悉有仏性説を中心に——」(1998)
- 「夢記の一世界——好相日記と自誓受戒——」(1999)
- 「西大寺叡尊像に納入された「授菩薩戒弟子交名」と「近住男女交名」」(1996)
- 大石雅章 『中世後期における顕密仏教の「民衆」化と律衆の社会的活動』(文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書) 2004
- 大石雅章 『日本中世社会と寺院』 清文堂 2004
- 「中世大和の寺院と在地勢力」(1979)
- 「中世西大寺の寺院組織について」(1980)
- 「興福寺大乘院門跡と律宗寺院」(2000)
- 「中世南都律宗寺院と七大寺祈禱」(1998)
- 「非人救済と聖朝安穩」(1987)
- 「中世顕密寺社と律衆」(2003)
- 「顕密体制内における禅・律・念仏の位置」(1988)

- 「葬礼にみる仏教儀礼化の発生と展開」（2003）
「比丘尼御所と室町幕府」（1990）
「尼の法華寺と僧の法華寺」（1997）
「寺院と中世社会」（1994）
かこさとし 『暮らしをまもり工事を行ったお坊さんたち：道登・道昭・行基・良弁・重源・空海・空也・一遍・忍性・叡尊・禅海・鞭牛〈土木の歴史絵本1〉』 瑞雲舎 2004
（『土木の絵本』4〈1997年〉の市販版）
国立歴史民俗博物館編 『中世寺院の姿とくらし——密教・禅僧・湯屋——』 山川出版社 2004
福島金治 「中世の僧の多様性」
藤井恵介 「律宗における僧食と僧堂」
羽田 聡 「中世寺院と茶」
平 雅行 「鎌倉仏教と顕密体制」
堀池春峰 『南都仏教史の研究』 遺芳編 法蔵館 2004
松尾剛次 『忍性』（日本評伝選） ミネルヴァ書房 2004
松尾剛次編 『持戒の聖者 叡尊・忍性〈日本の名僧10〉』 吉川弘文館 2004
谷口光明・納富常天 「私の叡尊・忍性」
松尾剛次 「叡尊・忍性の魅力」
松尾剛次 「叡尊の生涯」
蓑輪顕量 「戒律復興運動」
内藤 榮 「叡尊の舍利信仰と宝珠法の美術」
細川涼一 「忍性の生涯」
馬淵和雄 「叡尊・忍性教団の考古学」
松尾剛次 「忍性伝の諸問題」
稻城信子 『日本中世の経典と勸進』 塙書房 2005
第4部第1章 中世律宗における聖教の伝授（2002年）
第2章 『興正菩薩講式』の成立と展開（2002年）

- 上田さち子 『修験と念仏——中世信仰世界の实像——』 平凡社 2005
 IX山岳信仰からの脱却——叡尊——
 補論II 祓と宇治——地域と穢・祓・神祇——
- 内田啓一 『中世西大寺流と律宗の美術に関する基礎的研究』(文部科学省
 科学研究費補助金研究成果報告書) 2005
- 大三輪龍彦編 『浄光明寺敷地絵図の研究』 新人物往来社 2005
 大三輪龍彦 「絵図が伝える浄光明寺の中世の景観」
 石井 進 「「浄光明寺敷地絵図」に記載された人物は誰か」
 岩崎春樹 「絵図の風景」
 鈴木 亘 「建築的観点から考察した「絵図」」
 宮田 眞 「阿弥陀堂平場の発掘調査」
 大三輪龍哉 「鎌倉時代の浄光明寺」
- 鎌倉国宝館編 『覚園寺(特別展目録)』 鎌倉国宝館 2005
- 佐藤 信編 『西大寺古絵図の世界』 東京大学出版会 2005
 (関係分)
 石上英一 「西大寺と秋篠寺」
 五味文彦 「叡尊とその時代」
 月本雅幸 「西大寺聖教について」
 近藤成一 「西大寺文書にみえる院宣と繪旨」
 佐藤亜聖 「発掘資料からみた西大寺荘園絵図群」
 山川 均 「中世の開発——考古学的視点から——」
 藤田裕嗣 「西大寺・秋篠寺相論絵図に描かれた景観と現地との対話——
 とくに耕地の図像表現に注目して——」
 藤井恵介 「中世西大寺の建築と伽藍」
 野尻 忠・有富純也 「「西大寺敷地図(弘安三年)」について——西大寺
 荘園絵図調査報告——」
- 菅原信海 『神仏習合思想の展開』 春秋社 2005
 「三輪流神道の形成と発展」(1996)
 「三輪流神道の教相・事相」(原題「三輪流神道」, 1998)

- 説話文学会『説話文学研究』40（特集「金沢文庫所蔵中世説話・仏教・神道関係資料をめぐって」）
- 高橋秀榮 「称名寺の釵阿が集めた中世説話資料」
- 向坂卓也 「城ヶ島の薬師如来と十二神将の伝承」
- 西岡芳文 「『諸社寺勸進状写』と甘縄観世音寺・秋田四天王寺」
- 伊藤 聡 「称名寺の中世神道聖教——特に伊勢神宮に関する伝書をめぐって——」
- 高橋敏子研究代表 『東寺における寺院統括組織に関する史料の収集とその総合的研究』（科研費補助金研究成果報告書） 2005
（関係分）
- 馬田綾子 「中世東寺の過去帳について」
- 高橋慎一郎 「醍醐寺過去帳」の分析」
- 松尾剛次 『鎌倉 古寺を歩く——宗教都市の風景——』 吉川弘文館 2005
- 湯浅治久 『中世東国の地域社会史』 岩田書院 2005
- 第1部第1章 東国の日蓮宗（1994）
- 第1部附論2 六浦上行寺の成立とその時代——聖教奥書から考える——（1993）
- 内田啓一 『文観房弘真と美術』 法蔵館 2006
- 第1章 出自と西大寺
- 第2章 西大寺比丘としての事蹟
- 第3章 醍醐報恩院流
- 第4章 弘真と後醍醐天皇
- 第5章 建武新政における弘真
- 第6章 南朝と弘真
- 付章 弘真の付法
- 文観房弘真とその周辺年譜
- 追塩千尋 『中世南都の僧侶と寺院』 吉川弘文館 2006
- 第2部第2章 平安・鎌倉期における大安寺の動向（2002）

- 第2部第3章 平安・鎌倉期広隆寺の諸相 (1995)
第3部第1章 叡尊と葉室定嗣および浄住寺 (2004)
第3部第2章 叡尊歿後の西大寺 (1998)
『戒律文化』第4号「特集 中世の造形と律宗」 2006
山川 均 特集「中世の造形と律宗」によせて
岡本智子「初期宝篋印塔と律宗」
佐藤亜聖「西大寺様式五輪塔の成立」
山岸常人「中世建築と律衆 覚書」
藤澤隆子「文殊菩薩像と律宗」
〈小説類・その他〉
秋月水虎 『極楽寺忍性 (増補改訂)』 叢文社 2004

2, 論文

- 小川 央 「中世奈良の非人集団と中世の身分」『部落問題研究』156 2001
海津一朗 「日本＝神国観の成立をめぐる——中世紀伊国の場合——」
『史海』48 2001
大橋直義 「珠取説話の伝承圏——志度寺縁起と南都・律僧勸進——」『芸文
研究』80 2001
行徳真一郎 「奈良・西大寺所蔵吉野曼荼羅図について」『ミュージアム』
572 2001
佐伯快勝 「叡尊・忍性と現代——師弟の文殊信仰をめぐる——」『大法
輪』68-9 2001
佐藤弘夫 「宗教者群像——時宗や元寇との因縁を持つ日蓮・一遍・蘭溪・
無学・忍性——」『歴史読本』46-6 2001
高木庸一 「日本仏教におけるホスピスの源流——叡尊・忍性を中心に
——」『駒沢女子大学研究紀要』8 2001
高橋秀栄 「極楽寺願海筆『当麻曼荼羅縁起』について」『金沢文庫研究』
306 2001
藤江久志 「非人と叡尊教団——『感身学正記』建治元年八月二七条をめ

- ぐって——『久里——KURI——』11 2001
- 細川涼一 「堀川の船橋・水落寺と忍性」門脇禎二・朝尾直弘編『京の鴨川と橋』所収，思文閣出版 2001
- 松尾剛次 「興正菩薩御教誠聴聞集」『日本の仏教』第2期第3巻，法蔵館 2001
- 松岡心平 「律宗と花下連歌」『国文学解釈と教材の研究』46-5 2001
- 水野章二 「中世の額安寺と周辺地域」『国立歴史民俗博物館研究報告』88 2001
- 蓑輪顕量 「日本仏教史における叡尊・忍性——もう一つの「新仏教」——」『大法輪』68-9 2001
- 蓑輪顕量 「聖徳太子と祖師たち——叡尊と日蓮を中心として——」『大法輪』68-12 2001
- 蓑輪顕量 「中世仏教説話にみられる日本人の意識」聖巖博士古稀記念論集刊行会編『聖巖博士古稀記念論集：東アジア仏教の諸問題』山喜房仏書林 2001
- 東 隆信 「道元の生涯——西大寺・叡尊上人らと双照して——」『大法輪』69-6 2002
- 追塩千尋 「平安・鎌倉期の大安寺の動向」中尾堯編『鎌倉仏教の思想と文化』所収，吉川弘文館 2002
- 追塩千尋 『中世南都の僧侶と寺院』所収（吉川弘文館，2006）
- 大脇 潔 「行基の墓と墓誌」摂河泉古代寺院研究会編『行基の考古学』所収，塙書房 2002
- 小笠原弘道 「中世における光明真言信仰の一様相——明恵・叡尊の光明真言普及活動——」三派合同記念論集編集委員会編『新義真言教学の研究：頼瑜僧正七百年御遠忌記念論集』所収，大蔵出版 2002
- 苅米一志 「地頭御家人における信仰の基本的特質——「浄土寺文書」定證起請文を素材として——」『日本文化研究』13 2002
- 上林直子 「叡尊における戒律復興の内実」大谷大学大学院『研究紀要』19 2002

- 小谷利明 「叡尊と河内武士団 — 西琳寺氏人源憲俊を中心に —」『ヒストリア』179 2002
- 小林裕子 「叡尊による大御輪寺復興と十一面観音」『美術史研究』40 2002
- 佐藤昭嗣 「芸予諸島ならびに周辺地域の中世五輪塔 — 安芸・備後の花崗岩製五輪塔を中心として —」『岡山商大社会総合研究所報』23 所載「瀬戸内島嶼部の独自性と周辺地域との交流について」(土井作治・村上貢・三次正喜・岡嶋隆三・喜田栄次郎・佐藤昭嗣) と題する共同研究中の一文 2002
- 武石彰夫 「叡尊の仮名法語」『仏教文化研究所研究年報』6・7合冊 2002
- 武石彰夫 「中世紀行としての『関東往還記』」『仏教文化研究所研究年報』8 2002
- 内藤 榮 「西大寺金銅宝塔について」眞保亨先生古稀記念論文集編集委員会編『芸術学の視座』所収, 勉誠出版 2002
- 藤澤典彦 「重源と三角五輪塔の周辺」シンポジウム「重源のみた中世」実行委員会編『重源のみた中世 — 中世前半期の特質 —』所収, 同会発行 2002
- 細川涼一 「三条大宮長福寺尊鏡と唐招提寺慶円 — 後醍醐天皇と南都律僧 —」『中世文学』47 2002
- 松尾剛次 「中世律僧とは何か — 興福寺大乘院と西大寺末寺 —」中尾堯編『中世の寺院体制と社会』所収, 吉川弘文館 2002
- 蓑輪顕量 「日本人の護持した戒律」『宗教研究』333 2002
- 山川 均 「一遍の墓は誰がたてたか — 石工・聖・そして民衆 —」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』10 2002
- 山川 均 「石塔三題 — 京都のいわゆる西大寺様式五輪塔をめぐる —」『日引』3 2002
- 山路直充 「『西琳寺文永註記』「堂舎事」の検討 — 「古代における河内国西琳寺の景観」への前提作業 —」藤澤一夫先生卒寿記念論文集刊行会編

- 『藤澤一夫先生卒寿記念論文集』所収，帝塚山大学考古学研究所 2002
- 伊藤宏美 「仏教考古学より見たる身心観」東洋学研究別冊『東洋思想に
おける心身観』 2003
- 内田啓一 「愛染明王画像二題——根津美術館蔵とMOA美術館蔵を中心
に——」『仏教芸術』268 2003
- 内田啓一 「文観房弘真の付法について（上）」『昭和女子大学文化史研究』
7 2003
- 大塚紀弘 「中世「禅律」仏教と「禅教律」十宗観」『史学雑誌』112-9
2003
- 大橋直義 「仏舍利相承説と〈家〉——十三世紀の歴史叙述——」『日本文学』
52-7 2003
- 小平隆志 「忍性の慈善救済事業」『立正社会福祉研究』5-1 2003
- 海津一朗 「徳政の流れ 仏神から経済へ」村井章介編『日本の時代史10
南北朝の動乱』所収，吉川弘文館 2003
- 上林直子 「叡尊の行基信仰」大桑斉編『論集仏教土着』所収，法蔵館
2003
- 黒沢節子 「叡尊の儲茶の意味するもの」生活と芸術研究会編『私たちの茶
の湯』所収，淡交社 2003
- 五味文彦 「叡尊と一遍 時代を生きる」『仏教文化』43 2003
- 狭川真一 「西大寺奥ノ院五輪塔実測記」『元興寺文化財研究所研究報告
2002』 2003
- 鈴木良昭 「極楽寺のこと，山寺のこと——『十六夜日記』「山寺の傍なれば
…」——」『解釈』584・585 2003
- 日高洋子 「忍性における福祉的なもの」『和泉短期大学研究紀要』23
2003
- 平田 寛 「解脱何日——叡尊と文殊信仰——」『鹿園雑集』5 2003
- 福島金治 「下総土橋東禅寺と鎌倉極楽寺・称名寺」『千葉県史研究』11 別
冊「中世の房総，そして関東」 2003
- 藤澤典彦 「中世石工の近世的展開——南都を中心に——」シンポジウム

- 「中世諸職」実行委員会編『中世諸職』所収, 同会発行 2003
- 細川涼一 「覚盛・尊円・覚如の遁世——中世南都の戒律復興運動の一節——」 仏教史学会編『仏教の歴史的・地域的展開』所収, 法蔵館 2003
- 桃崎祐輔 「常陸三村山採集の永福寺系瓦と「極楽寺」銘梵鐘——三村山極楽寺の創建と八田知家をめぐる宗教環境——」『歴史人類』31 2003
- 桃崎祐輔 「石塔の造営と律宗・時宗」『季刊考古学』83 2003
- 山下 立 「三重・大統講種子曼荼羅懸仏の研究」『滋賀県立琵琶湖文化館研究紀要』18 2003
- 池浦泰憲 「南北朝内乱期の祈禱寺——妙顕寺の事例から——」『ヒストリア』192 2004
- 井上幸治 「円覚上人導御の『持斎念仏人数目録』」『古文書研究』58 2004
- 井原今朝男 「中世の国衙寺社体制と民衆と統合儀礼」一宮研究会編『中世一宮制の歴史的展開』下 所収, 岩田書院 2004
- 今尾文昭 「墓郷形成の前提——大和・結崎墓地の周辺——」『国立歴史民俗博物館研究報告』112 2004
- 内田啓一 「仏教版画の聖なる造型と納入空間の一特色」 頼富本宏編『聖なるものの形と場』所収, 法蔵館 2004
- 内田啓一 「文観房弘真の付法について(下)」『昭和女子大学文化史研究』8 2004
- 追塩千尋 「叡尊と葉室定嗣及び浄住寺」北海学園大学『人文論集』26・27 合併号 2004
- 追塩千尋 『中世南都の僧侶と寺院』所収(吉川弘文館, 2006)
- 大菅俊幸 「現代の叡尊・重源をめざした人——有馬実成——」『大法輪』71-3 2004
- 小平隆志 「忍性と文殊信仰の出会いに関する一試論」『立正社会福祉研究』5-2 2004
- 海津一朗 「異国降伏祈禱体制と諸国一宮興行」一宮研究会編『中世一宮制の歴史的展開』下, 所収, 岩田書院 2004
- 桑野潮美 「『八幡愚童訓』と叡尊——甲本における神祇と仏法——」 福田

- 晃・広田哲通編『唱導文学研究』第4集，三弥井書店 2004
- 小林定市 「律宗奈良西大寺の末寺草出常福寺」『山城志』18 2004
- 境 淳伍 「鎌倉時代の律宗と律僧」『民俗文化』491 2004
- 狭川真一 「高屋宝生院五輪塔実測記」『元興寺文化財研究所研究報告
2003』 2004
- 佐藤昭嗣 「尾道浄土寺伝定証上人墓の再検討」河瀬正利先生退官記念事業
会編『考古論集：河瀬正利先生退官記念論文集』所収，同会発行 2004
- 白石太一郎 「中近世の大和における墓地景観の変遷とその意味」『国立歴
史民俗博物館研究報告』112 2004
- 瀬谷貴之 「《コラム》長谷寺観音信仰と中世律宗——金沢海岸尼寺，奈良
西大寺，尾道浄土寺，厚木飯山寺，鎌倉長谷寺——」『企画展 みほとけ
とごりやく』所収，金沢文庫 2004
- 高田みつ子 「福田思想にみる行基と忍性の福祉的実践の比較——奈良時
代と鎌倉時代を比較して——」『杏林大学研究報告』教養部門21 2004
- 中西立太 イラスト歴史トレッキング「日本に生きる」(24)忍性の日々 『歴
史読本』49-12 2004
- 幡鎌一弘 「中近世移行期における寺院と墓」『国立歴史民俗博物館研究報
告』112 2004
- 福島金治 「中世寺院のネットワーク」院政期文化研究会編『宗教と表象〈院
政期文化論集4〉』所収，森話社 2004
- 藤江久志 「中世の「湯」の担い手——光明皇后湯施行伝説をてがかりに
——」御影史学研究会編『〈御影史学研究会創立35周年記念論集〉民俗
宗教の生成と変容』所収，岩田書院 2004
- 細川涼一 「中世都市鎌倉の境界 忍性と鎌倉」五味文彦・馬淵和雄編『中
世都市鎌倉の実像と境界』所収 高志書院 2004
- 松尾剛次 「叡尊寿像の背後にあるもの」『本郷』52 2004
- 八幡浩二 「中世「尾道」における都市の成立と展開」『考古学研究』50-4
2004
- 米山孝子 「行基信仰と寺院伝承——『行基ゆかりの寺院』の分析を通して

- 『大正大学研究紀要』89 2004
- 渡辺文雄 「大分法専寺・康成在銘南無仏太子像をめぐる」『大分県立歴史博物館研究紀要』4 2004
- 内田啓一 「西大寺流にみられる一尺四方の両界種子曼荼羅について」頼富本宏博士還暦記念論文集『マンダラの諸相と文化』上, 所収, 法蔵館 2005
- 内田啓一 「興正菩薩観尊画像について：室泉寺本を中心に(文化史学会第十三回大会発表要旨)」『昭和女子大学文化史研究』9 2005
- 奥 健夫 「金剛宝戒寺大日如来像と仏師康俊」『戒律文化』3 2005
- 小野沢真 「中世宗教都市鎌倉形成の過程——寺社の分身を中心にみる——」『印度学仏教学研究』53-2 2005
- 吉良国光 「金剛宝戒寺の再興と大日如来像について」『戒律文化』3 2005
- 佐伯俊源 「観尊上人と真言密教——「冥受三摩耶戒灌頂印信」をめぐる——」頼富本宏博士還暦記念論文集『マンダラの諸相と文化』上, 所収, 法蔵館 2005
- 狭川真一 「嚙合式五輪塔考」『日引』6 2005
- 佐藤昭嗣 「尾道石工の成立と展開——残された石造物から——」『岡山商大論叢』40-3 2005
- 瀬谷貴之 「長谷寺観音信仰と中世律宗——金沢・海岸尼寺, 厚木・飯山寺, 鎌倉・長谷寺, 尾道・浄土寺, 奈良・西大寺をめぐる——」『鎌倉』100 2005
- 曾根原理 「秋田四天王寺心俊と天台宗談義所」入間田宣夫編『東北中世史の研究』下, 所収, 高志書院 2005
- 高田みつ子 「忍性の福祉的実践の特徴としての救癩事業——対人援助サービスの視点から——」『杏林大学研究報告』教養部門22 2005
- 道津綾乃 「金沢文庫保管『律宗要義抄』について」『印度学仏教学研究』53-2 2005
- 福島金治 「鎌倉松谷正法蔵寺小考」『年報中世史研究』30 2005

- 船田淳一 「中世の天台・法相における懺悔と戒律について——『観普賢経』・『心地観経』の「理懺」言説の展開を中心に——」『日本宗教文化史研究』9-1 2005
- 松尾剛次 「鎌倉仏教の再発見——戒律復興、「個人」救済と叡尊・忍性——」『本郷』56 2005
- 山川 均 「奈良と鎌倉——忍性と大蔵派石工——」五味文彦編『中世都市研究II——交流・物流・越境——』所収，新人物往来社 2005
- 内田啓一 「和泉市久保惣記念美術館蔵胎蔵旧図様について——西大寺性瑜の事蹟——」『仏教芸術』286 2006
- 追塩千尋 「中世の橘寺と西大寺流」義江彰夫編『古代中世の社会変動と宗教』所収，吉川弘文館 2006
- 大谷由香 「叡尊における戒理解の特異性——特に在家仏教徒のために——」『印度学仏教学研究』54-2 2006
- 大塚紀弘 「中世律家の律法興行——衣食改革を中心に——」『仏教史学研究』48-2 2006
- 佐伯俊源 「西大寺光明真言土砂加持大法会」『秋篠文化』4 2006
- 佐藤亜聖 「石塔の成立と拡散」小野正敏・萩原三雄編『鎌倉時代の考古学』所収，高志書院 2006
- 八田洋子 「尼崎・如来院の笠塔婆と『師守記』——西大寺律宗と時宗の関係——（上）（中）（下）」『史迹と美術』76-1・2・3 2006
- 福島金治 「六浦湊の景観と金沢称名寺」小野正敏・萩原三雄編『鎌倉時代の考古学』所収，高志書院 2006
- 松尾剛次 「博多大乗寺と中世都市博多」『鎌倉遺文研究』17 2006

3，西大寺関係資料

- 稲城信子 「『興正菩薩講式』の構成と成立」『元興寺文化財研究所研究報告』2001年版 2002
- 「『興正菩薩講式』の成立と構成」と改題し，同氏著『日本中世の経典と勸進』所収，塙書房，2005年

- 八尾市文化財調査研究会編『教興寺跡：第1次調査・第2次調査』 八尾市
2002
- 遠藤基郎 「〈史料紹介〉平岡定海氏所蔵「東大寺別当次第」について」『東
京大学史料編纂所研究紀要』13 2003
(紙背文書翻刻部分)
- 極楽律寺編『極楽律寺史』中世・近世編 極楽律寺 2003
- 極楽律寺編『極楽律寺』彫刻・工芸・石像遺物編 極楽律寺 2003
- 佐藤 信代表『古代荘園絵図群による歴史景観の復元的研究』(科学研究
費成果報告書) 2003
「西大寺文書(稿)」
- 丸尾佳二「伊派石大工関係石造文化財銘文集成」『大阪商業大学商業史博
物館紀要』4 2003
- 大和郡山市教育委員会編『額安寺第8次発掘調査報告書』 2003
- 平成13～15年度科学研究補助金〈研究代表 稲城信子〉研究成果報告書
『日本における戒律伝播の研究』元興寺文化財研究所 2004
- 大阪市文化財協会編『荘厳浄土寺境内遺跡発掘調査報告』大阪市文化財
協会 2004
- 関口静雄・山本博也編『招提千歳伝記〈唐招提寺・律宗戒学院叢書第一
輯〉』昭和女子大学近代文化研究所 2004
- 道津綾乃「湛睿撰『律宗要義抄』について——翻刻と紹介(1)」『金沢文庫
研究』313 2004
- 松尾剛次監修「『興正菩薩御教誡聴聞集』訳注研究」『日本仏教総合研究』
2 2004
- 山口県立美術館編『周防国分寺展：歴史と美術：平成大修理完成記念』
山口県立美術館 2004
- 奥 健夫 史料紹介「大分・金剛宝戒寺大日如来像の造像銘記」『戒律文
化』3 2005
- 戒律文化研究会『中世の造形と律宗』(第4回研究大会資料集) 2005
- 元興寺文化財研究所編『世尊寺の版木』元興寺文化財研究所 2005

- 高岸 輝編 『摂津尼崎大覚寺史料』(1), 大覚寺刊行 2005
- 道津綾乃 「湛睿撰『律宗要義抄』について——翻刻と紹介(2)」『金沢文庫
研究』314 2005
- 奈良県立同和問題関係史料センター編 『大和国中世被差別民関係史料』同
センター刊 2005